

震災講話

2011. 3. 11 14:46

棚倉町は震度6弱の地震

津波、原発爆発、避難しふるさとに戻れない人々

後半の2つは福島県だけの苦難で、四重苦にあった唯一の県です。

棚倉町では802棟の住宅が被災しました。

棚倉の小中学校も被害を受け、放射線量が高いこともあってしばらくは正常な授業や活動ができませんでした。

先生方もできること、できる場所を見つけ、生徒と共にがんばりました。

地震から5ヶ月が過ぎ、まだまだ福島が風評の中にいる頃の、

8月4日に會津風雅堂において開催された第35回全国高等学校総合文化祭（ふくしま総文）総合開会式に開催県発表として福島県の高校生達が上演した構成劇『ふくしまからのメッセージ』で伝えられた高校生の言葉は、国会で総理大臣の所信表明演説にも引用され、世界中に広がりました。

地震の被害や原発被害が少しずつ見えなくなってきました。

棚倉は温暖で、人も良く、自然も豊かです。

少し離れてみると分かるかもしれませんが、とても良い町でここで育ったこと、棚中で学んだことを誇りにして欲しいと思います。それが、将来どこで暮らしていても福島を好きでいることに繋がります。

当時福島を離れる人が多くいた中で、福島が大好きな思いを短い言葉で綴った高校生の台詞を紹介します。

「福島に生まれて 福島で育って 福島で働いて 福島で結婚して 福島で子どもを産んで 福島で子どもを育てて 福島で孫を見て 福島でひ孫を見て 福島で最期を過ごす、それが私の夢なのです。あなたが福島を大好きになれば幸せです」

地震はこれから先も必ずきます。東日本大震災の経験を忘れずに、いざというときにも自分の命を第一に守り、家族や地域のために働き、力を出せる人となるために防災を学んでいきましょう。